

SABO NEWS LETTER

第 154 号【発行日】令和 4（2022）年 10 月 25 日(火)【発行】(一社)全国治水砂防協会

目 次

1. 目 次 1
2. 国土交通省砂防部長よりご挨拶 2
3. (一社)全国治水砂防協会理事長 挨拶 3
4. 国土交通省砂防部提供資料 4

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

一般社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<http://www.sabo.or.jp/>

国土交通省砂防部長よりご挨拶

会員みなさまにおかれましては、各地の砂防関係施策の推進に多大なる、ご理解・ご協力をいただき、本紙面をお借りして心より感謝申し上げます。また、今年も全国各地で土砂災害が多発しており、被害に遭われた地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

令和4年度も下半期に入りました。9月末時点の全国の土砂災害発生件数は655件、土砂災害により2名の方がお亡くなりになり7名の方が負傷され、家屋被害として全半壊41戸という状況です。今年の土砂災害報告からは、土石流、がけ崩れ、地すべりといった従来からのタイプに加え、土砂・洪水氾濫や流木災害も確認されます。事前防災で整備された砂防堰堤が土石流や流木を捕捉し、災害の防止・軽減に役立った事例が多数報告されています。このうち、長野県小川村では「防災・減災、国土強靱化3か年緊急対策」予算を活用して施設整備が早められ、完成直後の砂防堰堤が土石流を捕捉し、下流人家や県道を保全しました。また、山形・新潟両県にまたがる荒川流域では、甚大な土砂災害が発生した昭和42年の羽越豪雨災害以降に集中的に整備された砂防施設が土石流を捕捉する等、下流被害を防止した事例が報告されています。

さらに新潟県村上市小岩内地区ではかつての災害体験が実際の避難行動に結びついた事例が報告されています。土砂災害警戒情報の発表を受けた避難指示が発出後、住民のみなさんは声かけにより地区内の避難行動を徹底され、さらに一旦避難された公会堂から高台へと二次避難され、結果として人的被害が回避されたケースです。

今秋の台風期には、9月に台風14号、15号と連続して日本列島を襲いました。台風は本体周辺の危険性が高まるばかりでなく、比較的離れた場所にも大きな被害をもたらす等、慎重な対応が必要となります。気候変動の影響もあり油断のならない季節がもうしばらく続きます。国や都道府県と連携強化を図り、どこが危ないかを土砂災害警戒区域で知り、いつ危ないかを土砂災害警戒情報で知る、そして、市町村からの適切な避難指示で早めの住民のみなさんの避難行動を呼びかけ、人的被害を回避する取り組みを引き続きお願い申し上げます。

土砂災害対策には言うまでもなくソフト・ハード両面からの事前防災対策が重要です。現在進めている「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」をはじめとして、保全効果の大きい砂防関係施設を1基でも多く1年でも早く完成させることで、確実に「いのち」と「くらし」を守っていきたいと考えます。また、ソフト対策に関しても身の回りの土砂災害リスクを住民のみなさんに知っていただき早めの避難行動につなげていただく取り組みを進めていきたいと考えます。

令和4年度補正予算、そして令和5年度予算の編成に向けての作業が佳境に入っております。11月15日には砂防会館において、「全国治水砂防促進大会」が開催されます。当日は、最近の土砂災害対応から得られた教訓が報告される等、参加者で今後の土砂災害対策を考える貴重な機会としていただけたと考えます。会員みなさまにもお時間を頂戴できましたら幸いです。末筆ながら、土砂災害防止対策の推進に向け、会員みなさまのさらなるお力添えをお願い申し上げます。

(一社)全国治水砂防協会理事長 挨拶

会員の皆様へ

紅葉の候、皆様におかれましては益々ご清栄にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、10月13日～14日に火山砂防フォーラムが宮城県蔵王町にて開催され、参加してまいりました。久しぶりに対面形式を中心としたイベント開催となり、370名もの参加者が会場であるございんホールに足を運ばれ大盛況でありました。開催に尽力された蔵王町長はじめ実行委員会、東北地方整備局、宮城県、蔵王町の皆様に心から感謝申し上げたいと思います。また、全国から活火山を抱える地域の市町村長様が多く参加されておられ、大変感激いたしました次第です。

火山地域は火山から多くの恵みをもらっておりますが、災害という観点からは危険性をはらんだ地域でもあります。地域の方々が、そのことを知り、しっかりと危機に備えた上で、人の交流を進めていくことが今後ますます重要であると改めて認識することができました。ちょうど日本の入国規制が緩和されるタイミングでもあり、インバウンドの観光客も増加していくと思われます。人を迎える以上、安全・安心を確保することが必要なのは当然のことです。火山地域の安全を確保するには砂防関係事業の推進が欠かせません。しっかりとした長期計画に基づく着実な事業実施が望まれます。

来月11月15日には既にご案内のように「全国治水砂防促進大会」を砂防会館で開催いたします。ご多忙の中、砂防部長様からご講演を、呉市長様から意見発表をいただくこととなっております。会員の皆様のご参加を重ねてお願いするものです。皆様の声の結集が国土強靱化の実現のために必要です。どうかご参加いただきますようお願い申し上げます。

これから向寒のみぎり、どうかご自愛くださいますように。

令和4年10月
一般社団法人 全国治水砂防協会
理事長 大野 宏之

令和4年 全国の土砂災害発生状況(9月30日時点)

土砂災害発生件数

655件

【被害状況】
 土石流等：150件
 地すべり：32件
 がけ崩れ：473件

【被害状況】

人的被害：死者 2名
 負傷者 7名
 家屋被害：全壊 27戸
 半壊 14戸
 一部損壊 155戸

9/24

がけ崩れ

かがわしゆけ
静岡県掛川市遊家

死者：1名

9/24

がけ崩れ

はままつしてんりゆうりよくけいだい
静岡県浜松市天竜区緑恵台

負傷者：3名

8/4

土石流等

むらかみしこいかわうち
新潟県村上市小岩内

負傷者：1名
 全壊：6戸
 半壊：2戸

7/12

地すべり

ときがわまち せきぼり
埼玉県ときがわ町閑堀

8/6

土石流等

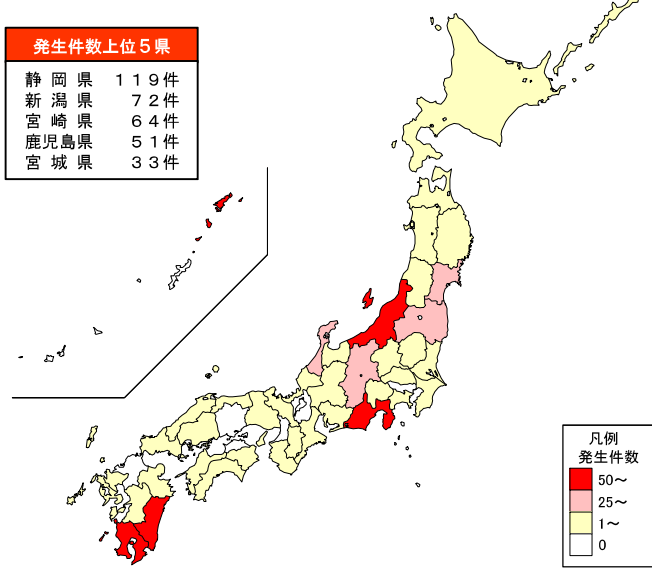
おがむらいなおか
長野県小川村稲丘

施設効果事例

防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策で
 整備した砂防堰堤が土石流を捕捉

発生件数上位5県

静岡県 119件
 新潟県 72件
 宮崎県 64件
 鹿児島県 51件
 宮城県 33件



凡例
 発生件数
 50～
 25～
 1～
 0

※これは速報であり、今後数値等が変わる可能性があります。

9/19

がけ崩れ

ひのかげようななれ
宮崎県日之影町七折

負傷者：1名

9/19

土石流等

みまたちようながた
宮崎県三股町長田

死者：1名

令和4年8月3日からの大雨による土砂災害の特徴

令和4年9月30日時点 速報版

- 前線の停滞や台風第8号の影響により、北海道、東北、北陸、近畿地方の日本海側を中心に短時間に猛烈な雨を観測。
 ■土石流、地すべり、がけ崩れ、土砂・洪水氾濫などの土砂災害が全国で206件発生し、負傷者1名、人家被害88戸の被害が発生した。また、多量の流木の流出により被害が拡大した事例が確認された。

近年発生水害と今回の大雨における降水量の観測史上1位の値を
 更新した観測地点の比較(令和4年8月14日時点)

	今回の大雨 (令和4年8月)	平成23年7月 新潟・福島豪雨	平成30年7月 西日本豪雨	令和元年 東日本台風
24時間降水量	31地点	8地点	77地点	103地点
3時間降水量	30地点	15地点	16地点	40地点
1時間降水量	36地点	15地点	14地点	9地点
土砂災害発生件数	206件	268件	2581件	952件

短時間降水量の観測史上1位の値を更新した観測地点が、
 他の災害に比べ多いことから土砂災害発生件数は少ないものの
 局所的に甚大な被害が発生した可能性がある。

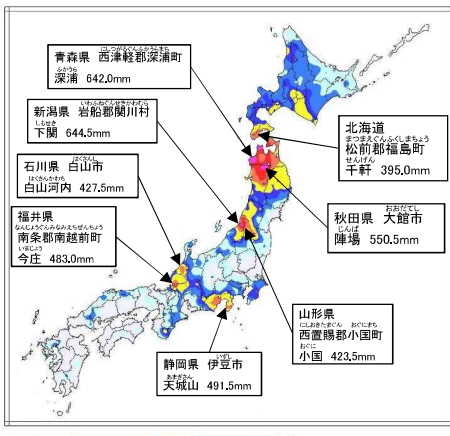
土石流等による被害状況

つるがし すいづ
福島県敦賀市杉津

がけ崩れによる被害状況

ひろさきしげもりしんちよう
青森県弘前市茂森新町

地すべりによる被害状況

ふじえだし おかべちよう
静岡県藤枝市岡部町

アメダスの主な地点の総降水量(令和4年8月1日から8月14日まで)【出典：気象庁】

特徴的な土砂災害

流木による被害の拡大

むらかみしこいかわうち
新潟県村上市小岩内

負傷者：1名

海岸に流れついた流木



土砂・洪水氾濫

いいでまち はぎゆう
山形県飯豊町萩生

新潟県村上市の小岩内大沢川では、土石流と共に大量の流木が流出。
 負傷者1名、人家被害8戸の被害が発生した。
 また、斜面崩壊が多発した場合、発生した流木は海まで流下し、
 海岸まで流れつく場合もある。

山形県飯豊町の萩生川では、
 斜面崩壊に伴い大量の土砂が
 流下し、河道が埋塞することで、
 土砂・洪水氾濫が発生。

令和4年8月からの大雨における砂防関係施設の効果事例(飯豊山系砂防事務所管内)

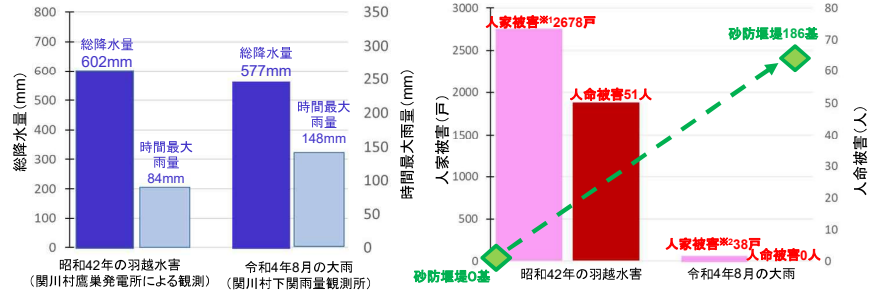
- 山形県、新潟県に跨る荒川流域において、土石流や土砂・洪水氾濫等により甚大な被害が生じた昭和42年の羽越水害を契機に山形県・新潟県の砂防事業や飯豊山系直轄砂防事業に着手し、これまで186基の砂防堰堤を整備。
- 新潟県関川村で総降水量が羽越水害時と同規模、時間雨量は約1.8倍となる等、荒川流域では大雨が観測され39件の土石流が発生したが、この内13件において既設の砂防堰堤により土砂や流木を捕捉する等、土石流被害を軽減。

昭和42年の羽越水害による被害状況

- 羽越水害では同時多発した土石流被害とともに、荒川本川へ大量に流出した土砂による土砂・洪水氾濫被害が上下流域で発生。



降水量と被害状況等の比較



※1 全壊、半壊を計上(砂防学会誌 1998, Vol.50, No.6より)
 ※2 全壊、半壊、一部損壊を計上(新潟県の報告より)

令和4年8月の大雨における施設効果事例

- 土石流が発生した下土沢地区及び下鉄江沢地区の2件では、5基の砂防堰堤が2地区・13戸の人家を保全したと推計

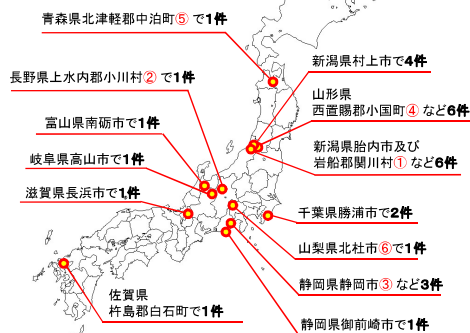


令和4年度 砂防関係施設の効果事例

令和4年9月28日現在

令和4年度、短時間で多量の降雨が確認された箇所において
29件の被害軽減効果報告があった

※同一一流域内の複数の効果事例は1件として計上

① いわふねぐんせきかわむら たいなしし しもくわえざわ
新潟県岩船郡関川村、胎内市(下鉄江沢)

災害発生日 : 令和4年8月4日(調査中)
 発生事象 : 土石流
 土石流捕捉量 : 約10,300m³(調査中)



② <3か年緊急対策による効果事例>

かみのちぐん おがむらいなおか やくしざわ
 長野県上水内郡小川村稲岡(薬師沢)

災害発生日 : 令和4年8月6日(推定)
 発生事象 : 土石流
 土石流捕捉量 : 約4,500m³

③ しずおかし あおいく ふくだがやほんだおく
静岡県静岡市葵区(福田ヶ谷本田奥地区)

災害発生日 : 令和4年7月26日
 発生事象 : 土石流
 土石流捕捉量 : 約50m³

④ にしおきたま おくに みょうざわがわ
山形県西置賜郡小国町(明沢川)

災害発生日 : 令和4年8月3日(調査中)
 発生事象 : 土石流
 土石流捕捉量 : 約50,000m³(調査中)

⑤ きたとつがるくんなかどまりまち こがねいし
青森県北津軽郡中泊町(小金石地区)

災害発生日 : 令和4年8月10日
 発生事象 : がけ崩れ
 土石流捕捉量 : 約150m³

⑥ おおいづみちよう みやがわがしがわ
山梨県北杜市大泉町(宮川沢)

災害発生日 : 令和4年8月24日
 発生事象 : 土石流
 土石流捕捉量 : 約3,000m³

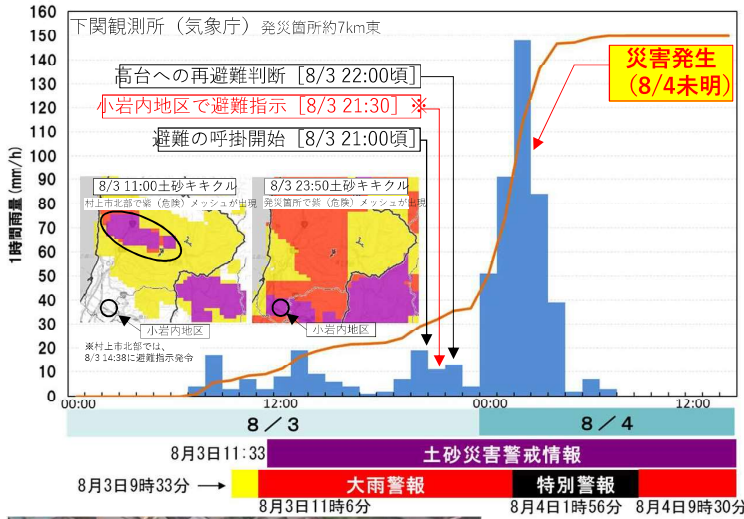


事前の避難により難を逃れた事例(新潟県村上市小岩内地区)

こいいうち

- 令和4年8月3日からの大雨において、新潟県村上市小岩内地区では、複数の住宅が巻き込まれる土石流災害が発生。
- 地区役員が3日21時頃、住宅を1軒ずつ回り、避難を呼び掛けた。一度は地区の公会堂に避難したが、昭和42年羽越水害を教訓とし、高台に位置する住宅等へ「再避難」を実施し、犠牲者はいなかった。

【降水量の時間変化と情報等の発表状況(新潟県村上市)】



村上市洪水・土砂災害ハザードマップ 荒川地区



災害発生場所

【区長コメント】

- いち早く高台に再避難できたのは、55年前の大水害(羽越水害)の経験が大きい。(公会堂は羽越水害でも被害に遭った場所だった)
- 空振りでもいいと聞き直り、住民たちに再避難を呼び掛けた。

令和4年災害におけるTEC-FORCE砂防班の活動

- 災害発生直後、TEC-FORCEの活動要請を受け、地方整備局の直轄砂防事務所の職員を砂防班として派遣。
- UAVによる土砂災害箇所の調査や、地元住民への被災状況等の聞き取りを行い、とりまとめを県や地元市町村に報告し、迅速な災害申請などの検討に寄与。

◆8月4日からの大雨における活動

- 8月4日からの大雨では、北陸や東北の日本海側で土砂災害が多発。
- 人家の損壊だけでなく負傷者も発生した新潟県村上市花立地先での土砂災害に対して、天候が一時回復した8月4日午後TEC-FORCE(砂防班)を派遣。調査情報の同時共有により本省でも状況を確認。
- 北陸地方整備局に加え、東北及び関東地方整備局からのTEC-FORCE派遣隊員も集結。復旧に向けて迅速な現地調査を実施。



◆台風第15号における活動

- 台風第15号による災害発生直後、被災した地方自治体の首長から中部地方整備局への要請を受け、静岡県島田市等にTEC-FORCE(砂防班)を派遣。
- TEC-FORCE派遣隊員によるUAV調査や住民への聞き取りによる被災状況に関する情報収集を実施。



●全ては地域の安心と安全、そして円滑な復旧を実現するため。